

2024年度三郷サンサンハウス事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

【三郷サンサンハウスの三つの理念】

- 1 住み慣れたまちで暮らしつづけるために必要な支援を幅広く行います
- 2 利用者や地域から信頼される事業所・職員として成長します
- 3 安全・平等・平和な社会環境づくりの一端を担います

I 事業実施の方針

[1 はじめに]

三郷サンサンハウスが介護保険事業を開始して20年を迎えるという、大きな区切りとなった一年でした。職員一同、たくさんの方々に見守られ、ご支援、ご協力をいただきながらここまで続けてこられたことを深く感謝しています。また数年間猛威を振るったコロナウィルス感染症が2023年に5類に移行したことに伴い、高齢者に寄り添う事業所としては慎重でありながらも、様々な活動を積極的に再開して、今後より発展していくことを心掛けた年でした。

A.1 年間の取り組み

- 効率的に業務を遂行することによって経営を安定させることを大きな目標として掲げました。
- 今後ますます深刻化が予測される人材不足に対する取り組みとして、職員の就業が継続及び定着することができる働きやすい職場づくりを目指しました。

B.経営改善への取り組み

- 職員がスキルアップを図り、新たに資格を取得できるよう事業所としての支援を行いました。
- 介護や育児などを担う職員が家庭と仕事との両立が無理なくできるよう、シフトなどを考慮して働きやすい職場環境を作りました。
- 助成金や処遇改善加算を活用して賃金改善に役立てました。

C.地域との関わり

- 近隣住民が参加する運営推進会議や地元自治会との繋がりによって、地域のニーズを捉え、親しまれる事業所としての役割を果たせるよう努めました。
- 萌の里の主催する「観月祭」や「おばあちゃんの駄菓子屋」、地元自治会「三室フェスティバル」への参加など、地域住民との積極的な交流を図りました。
- 当法人の理念に賛同してくださる会員を増やしていくために、サンサンニュースを継続的に発行していき、知名度向上に役立てています。

〔2. 特定非営利活動に係る事業〕

（1）介護保険法に基づくデイサービス事業及び第1号通所事業

2024年度は実施計画なし

（2）デイサービスセンターくるみ（介護保険法に基づくデイサービス事業 A.1年間の取り組み 及び第1号通所事業）

- デイサービスに来られた方が全員リハビリプログラムに参加できているということは、利用者の気持ちを尊重しながらも、より動きたいと思う方に向け全体の雰囲気を楽しんでいただけるようにと盛り上げてきた職員の力量が大きく関与しました。くるみの機能訓練が自宅での生活に直結しているということをしっかりと理解した職員の対応ができたからこそ実現できたことでした。
- 月1回行われる会議でテーマを決めての研修を行い、実際に経験していない事も全職員が対応できるように指導してきました。実際に感染症を疑う事例や、緊急の事態の時に、それぞれの職員が役割を担って適切に対応できました。日ごろの仕事上で細かい連携が取れたことと研修での学びの成果だと思われます。
- 利用者の様々な困りごとに向き合い、デイサービスの職員としての対応を話し合いました。朝に自宅から出にくい利用者に対して、職員の訪問で行きたいと思ってもらえる対応ができたことは、引きこもりにならずに継続して自宅から出てデイや買い物に出かけられることにつながり、デイサービスの役割を担えたことと自負しています。

B.経営改善への取り組み

- 専門的なリハビリの視点から支援を継続できていることで、新規の利用も安定しました。新規利用は要介護より要支援の利用者が多く、現在は要介護利用者の方が少なくなっています。
- 職員の指導体制においては、リーダー会議を数か月に1回実施し、それぞれの指導における困りごとを共有するなど、指導者側の教育にも力を入れました。指導される職員から目標が達成できないとの声も聞かれ、指導の難しさに直面しました。職員の特性に合わせた指導をしていくことが課題です。

C.地域との関わり

- 運営推進会議を開催し地域の方にお越しいただきましたが、参加してくださる方は増えていません。現在はくるみ職員は地域の活動に参加できていないのが現状です。

（3）ヘルパーステーション（介護保険法に基づく訪問介護事業及び第1号

A.1年間の取り組み 訪問事業）

- 月平均で合計43名前後（内訪問ヘルパー利用者は33名、介護タクシーのみは10名）の利用がありました。1ヶ月の各支援の平均回数は、身体介護中心

型が 60 回、生活援助が 170 回、介護タクシーが 57 回でした。

- 常勤 2 名(管理者兼サービス提供責任者1名、兼務常勤1名)、非常勤 8 名(ヘルパー6 名、ドライバー1 名、事務 1 名(サービス提供責任者))で活動しています。

非常勤職員 1 名採用して、急な欠勤が発生しても、職員同士互いに助け合い、勤務を継続することが出来ました。

B.経営改善への取り組み

- 信頼できる事業所であるために、ヘルパー間で都度話し合い、ケアマネジャーへの報告・連絡・相談をしました。利用者の独自性を尊重した支援を心がけています。
- ご利用者の急激な変化に出来る限り寄り添い、度重なる支援内容の変更にもケアマネジャーと密に連絡を取り合い対応しました。
- ケアマネジャー、訪問看護、訪問リハビリへの連絡も行い、課題解決のための多職種連携をしてきました。

C.地域との関わり

- 連携する居宅支援介護支援事業所 9 社のケアマネジャーから依頼を頂いています。情報共有を丁寧に行い、地域での介護の役割を担ってきました。
- 地域包括と連携をとり、利用者が地域の中での生活を安心・安全に過ごせるよう努めました。

(4) 小規模多機能ホーム萌の里（介護保険法に基づく小規模多機能型居宅

A.1年間の取り組み **介護事業**

- 職員会議を月 1 回行っています。利用者が望む暮らしを理解し、状況に応じた支援ができるよう、一人ひとりが気づきの力をつけています。会議では毎月テーマを決めて研修も行いました。外部研修受講の後は、職場内研修の講師となり伝達することで全員がスキルアップすることを目指しています。
- 介護福祉士の資格取得を推奨しています。シフトの調整や勤務時間の配慮を行い、実務者研修を受講しやすいような職場環境であるように努めました。
- 防災訓練では、簡易担架を使った避難訓練や AED や胸部圧迫などの救命訓練を行いました。地域の防災訓練にも積極的に参加しています。災害時に業務継続ができるような体制を整えています。

B.経営改善への取り組み

- 現在登録利用者 26 名を支援しています。定員 29 名の内、平均利用者数は 27.6 名でした。昨年度の平均から 5.6 名増ですが、職員の常勤換算数は 17.5 人と昨年とほぼ変わらないため、人件費率が減少しました。地域のケアマネや地域包括支援センターに小規模多機能ではどんな支援をしているかをお知らせし、積極的に営業活動をしました。介護ベッドや机を増やすなど、レイアウトを工夫し環境

を整えたことで新規の受け入れがしやすくなりました。

- 介護福祉士の資格取得や認知症介護実践リーダー研修の受講により、サービス提供体制加算Ⅲや認知症加算Ⅱを取得することができました。
- 奈良県デジならキャンペーン補助金を利用し、介護ソフトを SaaS(クラウド)サービスに切り替えました。これまではインストールしたソフトを利用できるのは 1 台のパソコンのみでしたが、複数のパソコンやスマホ、タブレットからも記録や情報共有ができるようになり業務効率が改善しました。

C.地域とのかかわり

- 8 月に地藏盆、10 月に観月祭を行いました。利用者、家族だけでなく多数の地域の方にも参加をいただき大盛況でした。おばあちゃんの駄菓子屋にも毎月近所の子どもたちやお母さんたちが馴染みの顔を見せてくれます。お店番のおばあちゃんたちは交流を楽しみにしています。
- すこやか体操や夜回り、防災訓練、防犯会議、秋祭りの協力など三室地区の行事には積極的に参加をしています。三室自治会の和らぎの会やサロンへも利用者が参加し、必要に応じて送迎や付添をしています。11 月の三室フェスティバルには昨年もおばあちゃんの駄菓子屋とサンサンサロンの手作り小物の出店をさせていただき大好評でした。
- 毎月のオレンジカフェや三郷町キャラバンメイトの連絡会や催しには可能な限り利用者とともに参加しました。認知症の方が希望をもって暮らせるよう、地域全体で支え合えるように取り組んでいます。
- 小規模多機能ネットワークの連絡会や研修、生駒郡や三郷町のケアマネ研修や会議に出席し、情報共有や知識の研鑽に努めました。
- 3 か月に一度の運営推進会議では、萌の里の取り組みを伝え、介護のことや地域の課題などの意見を出し合い検討しています。

(5) 居宅介護支援事業所(介護保険法に基づく居宅介護支援事業)

A.1年間の取り組み

- 超高齢化社会や介護の人材不足により介護需要や介護ニーズに答えられなくなる今後を見据えて、介護保険サービスに代わるセルフケアやインフォーマルサービスを積極的に利用者に提案し、利用者自身でできることは継続していけるような声掛けやサポートをしました。また、家族や近所等、周りの人たちの協力も得やすいように日頃から連携を心がけました。
- 実践力(ケアマネージメント力)のあるケアマネ育成の取り組みとして、「居宅会議」や「他の事業所との共同事例検討会」を定期的に持ち、一つ一つの事例に対して振り返り(事例検討)を継続しました。そこでは個々の事例について共に考え、経験を分かち合い、ケアマネ同士でサポートし合う場を大切にしました。
- 奈良県介護支援専門員実務研修に係る実習生を受け入れ(4 月)、ケアプラン作

成実習や見学実習を指導しました。これからケアマネ職に就こうという実習生に対して実務業務だけでなく、ケアマネとして利用者に関わる時に大切にしていることや経験を伝えられたことは、自分達も初心に戻る良い機会となりました。

B.経営改善への取り組み

- 介護予防支援の要支援認定の利用者(元々の居宅介護支援費が低いうえに上乗せされる特定事業所加算を算定できない)数が要介護認定の利用者を上回り、介護報酬が思うように伸びませんでした。
- ケアマネジャーの依頼がある新規利用者を断ることなく受けた結果、要支援認定者が多数を占めました。

C.地域との関わり

- 地域包括支援センターと連携し、地域の利用者の情報共有を綿密にし、住み慣れた地域で利用者が安心安全に暮らしていくため、適切で切れ目のないサービスが適時提供されるよう努めました。
- 地域包括センターが主催する研修会、生駒郡内介護支援専門員合同研修会、生駒郡地域ケア会議の多職種勉強会、また地域の事業所が主催する研修会に積極的に参加し、医療関係者・介護関係者と顔の見える関係作りを心がけました。

(6)ヘルパーステーション(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する

A.1年間の取り組み **ための法律に基づく障害福祉サービス事業)**

- 現在は家事援助 2 名、通院介助 1 名の合計 3 名が利用中です。
訪問は介護保険のヘルパーが兼務で行っています。

B.経営改善への取り組み

- 障害の特性についての理解や知識を深め、細やかな支援ができるように心がけました。
- 相談支援専門員との連携をし、利用者の生活の安全を守るため、緊急時にも対応できるよう努めました。

C.地域との関わり

- 連携した特定相談支援事業所は 3 ヶ所です。通院介助(院内付き添い)の支援では、訪問看護事業所と成年後見人にも診察内容、及びかかった費用などを報告しています。
- 障害福祉サービスだけでは賄えない通院介助には、三郷町から委託を受けた移動支援事業で対応し、滞ることなく通院を継続することができました。

(7) 特定相談支援事業所(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援す

るための法律に基づく特定相談支援事業)

2024 年度実施計画なし

(8) 介護保険法に基づく訪問看護事業 2024 年度実施計画なし

(9) サンサンサロン (自立支援事業)

A.1年間の取り組み

- 利用者に興味を持ってもらえる制作を工夫して提案して、できるだけ一緒に作業しました。
- 衛生面に考慮しながら、定期的に皆で季節に応じた手作りのおやつを作って楽しみました。
- 利用者に人気のある折り紙を脳トレの為にも継続的に続けていきます。
- サンサンサロンの玄関前に設置しているボードに、季節ごとの作品を掲示しました。

B.経営改善への取り組み

- 人件費削減の為にスタッフ一人での対応を検討しましたが、参加人数が減ったことでスタッフが一人だと一対一の対応となり利用者が気をつかわれかえってうまく運用できず、毎回 30 分の人件費削減しかできませんでした。

C.地域との関わり

- 地域の自治会が主催する三室フェスティバルへ参加して、サンサンサロンの手作り品の販売をしました。
- 麻雀のサブメンバー4 人を新たに登録しました。

(10) 24時間生活支援事業(たすけあいの会)

A.1年間の取り組み

- 今年度、月平均では 5 名、27 回程度の利用がありました。
不定期・定期のゴミ出し、掃除、庭の掃除などの介護保険ではできない支援などでも利用していただきました。
- 訪問ヘルパーやサンサンハウスの職員が兼務して活動しました。

B.経営改善への取り組み

- 介護保険では行えない、多岐にわたる支援を自費サービスで行いました。
- 急なお困りごとにも寄り添い、たすけあいの心で支援しました。
- 体調や生活での困りごとの相談に対しての助言を行うなど、介護事業所のメリットを活かした支援を行いました。

C.地域との関わり

- 地域にある介護事業所として、介護保険の利用ができない方にも安心して利用していただけるよう努めました。

(11) 高齢者の家あかねの里（共同住宅事業）

A.1年間の取り組み

○入居者の家族と定期的に話をし、入居者の情報を共有し安心して任せてもらえる支援に繋げる事ができました。

○2 階テラスと隣家との塀の修繕を行いました。

B.経営改善への取り組み

○毎月の会議で介助方法や食事内容・食事形態等を話し合い職員全員が同じ支援が出来るよう努めました。

○入居者の体調、変化に気づきかかりつけ医と連携して対応することができました。

C.地域との関わり

○居室についての問い合わせを頂くことが多く、気軽に相談できる場所と感じています。

(12) ボランティア育成及び広報・研修事業

A.1年間の取り組み

○広報の要であるサンサンニュースを発行して、サンサン会員や近隣住民へ配布しました。今年度は法人が介護事業を開始してから 20 年という節目の年となったため、定期的な発行の他にも“20 周年特別記念号”を作成しました。音声データを HP に掲載することで、耳からも楽しめるようにしています。

○ハラスメント対策をはじめとして、認知症理解や感染症対策といった内容をテーマにして事業所内研修を開催しました。また新規職員を対象とした新任研修では法人の理念や NPO への理解、介護保険や身体介護といった内容を共に学びました。

○運営推進会議や事業所のイベント、施設管理やサンサンニュースの発行等には、ボランティアの皆さんの協力が不可欠です。皆さんには一年間の活動への感謝の気持ちを込めて、ささやかな記念品をお渡ししました。

B.経営改善への取り組み

○新たな広報手段としてインスタグラムを定期的に更新するようにしました。事業所の様子を写真でお知らせすることにより利用者の家族にも安心してもらえることができ、読んだ方からのコメントやDMでの交流も増えつつあります。

C.地域との関わり

○ボランティアとして貢献してくれる方々が自分のやりたい事や適性を見つけられて、双方が協力して納得して活動ができるようにしました。

(13) 福祉タクシー（外出支援事業）

A.1年間の取り組み

- 送迎は介護保険利用が主で、保険外の福祉タクシー利用回数は月平均4回程度でした。
- 利用ごとの清掃、消毒、換気を徹底し、安全に気持ちよく利用いただけるよう努めました。

B.経営改善への取り組み

- 普通自動車二種免許と介護福祉士資格を持つドライバー1名、登録車両1台で送迎を行いました。安全運転と安心できる乗降介助技術で、また利用したいと言っていたいただけるような対応を心掛けました。
- 利用は予約制ですが、可能な限り緊急利用にも対応しました。

C.地域との関わり

- タクシー券の利用ができる、三郷町、平群町、王寺町の地域の方からの依頼がありました。

(14) 給食サービス事業 2024 年度実施計画なし

(15) グループホーム事業 2024 年度実施計画なし

(16) 地域交流支援事業

A.1年間の取り組み

- 萌の里では定期的に行っている“おばあちゃんの駄菓子屋”に加えて、数年ぶりに“観月祭”を行いました。大勢の近隣住民に参加してもらえ、楽しんでもらえました。
- 本部建物玄関フロアで販売している野菜やお茶、手作り小物、トートバッグ等は近隣の方にも購入していただけています。掲示板での告知以外にもSNSやサンサンニュースでも取り上げてP.Rに努めました。

B.経営改善への取り組み

- 元々デイサービスとして利用していた施設をレンタルスペースとして新たに活用することにしました。地域の方々に気軽に利用してもらえる方法を模索しています。
- くるみ Style では、通年、レッドコードを使った運動やヨガ、リハビリといった一般向けプログラムを実施して経営改善に役立てています。

C.地域との関わり

- 地元自治会のイベントに萌の里の駄菓子屋とサンサンサロンの手作り小物の店が出店しました。売り上げは各事業所の活動費として大切にに使わせてもらいました。

○地域の防災訓練などに積極的にに関わり、自治会の一員としての役割を果たせるよう努力しました。

[3. その他の事業]

(1) 物品販売事業

A.1年間の取り組み

○安価で美味しいと評判のほうじ茶や緑茶は、年間を通じて買い求めてくださる方が多く、以前からなじみのある業者から何年も続けて仕入れています。数本まとめて購入される方もいて欠品とならないよう気を付けています。

○当法人に勤務する職員が提供してくれる朝採れ野菜は、新鮮で美味しく、また昨今の市場の価格高騰にも関わらず、いつも良心的な対応をしてくれています。

B.経営改善への取り組み

○通年の販売の他に、法人の活動に協力いただいた方々へのお礼にサロンの品物をお渡ししました。また、SNSを利用して商品を紹介するなど、少しでも収益が出せるよう工夫しました。

C.地域との関わり

○2023 年に引き続き地元の自治会主催のイベントに参加して、サンサンサロンの手作り小物や職員有志の手芸品等を販売しました。大勢の方々に手に取ってもらえました。